

1. 同感してくれる人を見つける

ナショナル・トラスト活動は、まずは土地を買う、お金を集めるという行為を伴いますから、とてもひとりだけではできません。なるべくおおぜいの同じ考えの仲間が、それも、保全したい場所のある地域での仲間が必要です。

得意分野を活かす

その中に、「私はこれが得意」という人がいるとたいへん役に立ちます。この活動はとりわけ、さまざまな専門知識や技術がものを言うからです。▶44頁

町内会、PTA、ボランティアサークル、そして職場。どんなところにもきっと人材が見つかるでしょう。出かけて行って話を聞いてもらいましょう。場合によってはその場所の自然環境とか歴史的価値などの調査を外部の専門家に頼む必要もできます。そういう人たちにもどんどん仲間に入れてもらいましょう。

ボランティアがだいじ

いちばん必要なのは、思いを同じくして労をいとわず根気よく活動を継続できる、ボランティアであることは言うまでもありません。

都道府県、市町村には、ボランティア・センター、NPOセンターといった相談窓口を設けているところが多いようです。そういうところを訪ねてみるといいかもしれません。

また、全国でナショナル・トラスト活動をおこなっている団体についての情報は、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会で見ることができます。あなたの近くにもそうした団体があるかもしれません。この協会は年に1回、全国大会を開いています。そこへ出かけてみるといろいろな人と出会えます。

仲間が集まったら会の目的を明確にし、よきリーダーを立て、しっかり運営できる組織をつくります。責任のもてる組織でなければ、募金を託してもらえるほどの信頼(トラスト)は得られません。



仲間の環を広げた事例（鎌倉市の広町緑地保全）

神奈川県鎌倉市の『広町の森』の異変に気が付いたのは、ある住民自治会の人たちでした。「何か測量してる。へんだよ！」

それは今から40年近く前のことです。宅地開発計画反対と、市に対する保全要請の署名集めを、まず周辺8町の自治会に呼びかけましたが、全町会の結集は簡単なことではありません。

根気よく説得を重ねた結果、5年余り経った1984年、ついに8自治会連合体「鎌倉の自然を守る連合体」の結成に漕ぎつけたのです。住民の中には弁護士さんを始めさまざまな仕事のプロがいて、それぞれに知恵を働かせました。長い年月を署名運動、市民集会、募金活動に費やして仲間の環を鎌倉市全域に広げることに成功、そのおおぜいの市民の意思に応じて、市が買い取りによる保全を決めたのは、2003年のことです。